

学校の概要	学校名	茅野市立北部中学校	学校長	北澤 孝郎	児童生徒数	291 名
-------	-----	-----------	-----	-------	-------	-------

「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について

学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○	ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会有る	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会有る	
名称	茅野市型コミュニティスクール 北部中学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人
				主任児童委員 民生児童委員(各地区代表) 学校評議員(各地区) PTA役員 ボランティアの方		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5/11(水) 中止 学校評議員会, 正副支援部長会実施 9/ 2(金) 中止 学校評議員会, 正副支援部長会実施 12/16(金) 予定 2/17(金) 予定	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			

運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況

学校教育目標	夢に向かってたくましく生きぬく生徒
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の良さと課題を見つめ、地域づくりの主役である意識を高める子どもたち

運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)		地域と協働した活動状況	
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。
2	学校運営への必要な支援について	○	
3	地域の実情や課題について	○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋と兼用でも可)
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	4	4 協働活動に参加したボランティアの人数 ボランティア登録者人数 40 人 参加者延べ人数 100 人

地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児			
	学校・家庭・地域の協働した取組例							



代表的な協働した活動の取組例
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)

○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)

【通学路点検と登下校の見守り】
民生児童委員の皆さんを中心に、登下校の際の生徒の安全・安心のために「ふらっと見守り」をお願いしている。特に危険な箇所については、毎日付き添って登校していただいたり、巡視をしていただいている。通学路点検にも、コーディネーター、PTA会長(副コーディネーター)に参加していただいた。
学校、保護者、地域がそれぞれの立場で行っていることを共通理解するとともに、今後の連携について考えるきっかけとなった。

育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題
(運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)

- ・本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため入校制限をしており、学校に来ていただいていたの支援が難しい。ボランティアの方々の健康管理を毎日行うことで、職員と同じ扱いで校内に入れる体制づくりを考えたり、校内の居場所や交流スペースの確保ができるかどうかを検討したりしている。
- ・学区が5つの行政区、4つの小学校にわたっているので、今後も運営委員の人材確保に努め、連携して活動していくことを確認していく。
- ・今後、感染症対策の制限がある中での連携を、「学校に来ていただく連携」から、「学校が地域に出向く連携」へと転換していきたい。